



(子ども発達センターニュース)

スクッピーだより

平成 23 年 1 2 月 調布市子ども発達センター

TEL/042-486-1190 E-mail/ ayumi@w2.city.chofu.tokyo.jp



「支援の広がり」

「暑い暑い」と首に保冷剤を巻いていた夏がいつの間にか過ぎ、気がつけばマフラーを巻く寒い冬になってしまいました。時の流れの速さに驚くばかりです。

子ども発達センターも開設後3年目を迎え、10月には初めて「センターまつり」を開催することができました。当日、館内は子どもたちの笑顔と歓声に包まれました。ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。あらためて、たくさんの皆様とのつながりに支えられていることを実感した日でもありました。

さて、子ども発達センターには、日頃から利用者の他にたくさんのお客様が来館しています。センター利用児の在籍する幼稚園・保育園等の先生方には、お子さんの利用日や「療育見学会」に来館していただき、連携を深めています。また、都内の区市や他県からの視察も受け入れさせていただいています。子どもの発達支援は調布市に限らず、日本全体にとっての重要な課題であり、各地で、早期支援の方法や発達センター等の設置について検討されています。

調布市の取組が少しでも参考になり、他の地域の子どもの役に立つことがあれば、それが「支援の広がり」となり、大げさかもしれませんが「日本全体の支援の向上にもつながることになる」との思いから、見学・視察を受け入れています。(私たちも発達センター開設準備の際には、たくさんの施設を視察させていただきました。)

さらに様々な地域との交流により、私たちも多くのことを学び、これからの支援に役立つものと思っています。

見学・視察の受け入れは、療育に支障のない範囲とし、個人情報保護についてはもちろんのこと、お子さんに影響がないよう最大限の配慮をさせていただきます。今後とも、ご理解とご協力をお願いいたします。



子ども発達センター長 田中 けい子

「家族と過ごす時間」

センターの周りの木々が赤や黄色に色づいて、カラフルな落ち葉のじゅうたんの上を歩くとカサカサと軽やかな音が楽しい季節になりました。

この季節はクリスマス、お正月など家族と一緒に過ごす時間も増えてきます。

普段は忙しくて、なかなかお子さんと遊ぶ時間が取れないお父さんの出番！

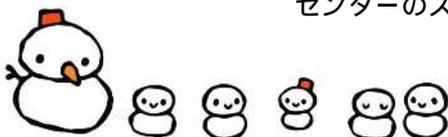
“子どもは風の子” 近所の公園で遊ぶのもいいですが、電線の無い広場で「たこあげ」なんて、いかがですか？お父さんの腕の見せ所ですよ。

年末年始は、おじいちゃん、おばあちゃんと過ごしたり、親戚が集まったりとお子さんにとっても、いろいろな人とふれあうチャンスです。いつもとは違うお子さんの顔が見られるかも知れませんね。

2011年は3月に震災が起き、家族の絆が注目され、あらためて家族や人とのつながりに気付かされた年となりました。

お子さんを中心にした人の輪が大きく大きくなって、強力な応援団を作っていきたいものです。私たち子ども発達センターのスタッフも応援団の一員として、お子さんとご家族の応援を精いっぱいさせていただきますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

通園事業あゆみ園長 田崎 明子





平成23年度 センターまつり報告

10月22日(土)午後1:00~4:00 子ども発達センター初の「センターまつり」を開催しました。朝から雨が降り、あいにくのお天気でしたが、193人の来場者がありました。ボランティアの方など、ご協力いただきました皆様ありがとうございました。



ホールイベント

- ・みんなで踊ろう! 「マルモリ体操」
(職員による出し物)
- ・よさこい (ちょうふだぞう)
- ・パネルシアター、ヘビダンス、人形劇他
(駒沢女子短期大学児童文化部)
- ・リトルステップ (おやじバンド演奏)



1F



スヌーズレン

静かな音楽を聴きながら、光や柔らかい感触の中、リラックスするお部屋。

ボールプール

たくさんのお子
ども達が楽しんで
いました。

リユースコーナー

スクッピー友の会による、子ども用品の交換会が行われました。

2F

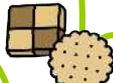


休憩室 & 作品展示
子ども達の作品を展示しました。



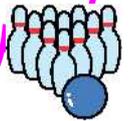
販売

- ・わかば:
自主製品
- ・すまいる:
パン、クッキー
- ・びいす:
パウンドケーキ、
革製品、飲み物



ゲームコーナー

ボーリング(2D)
景品を選ぶのも楽しみでした。
パンチボールすくい(2C)
いろんな道具を使ってすくいました。



〈おまつりに参加して下さった事業所の紹介〉

調布市知的障害者地域生活・就労支援センター 「ちょうふだそう」

障害のある方の就労支援と生活支援を行っています。

毎年参加している調布よさこいの曲を含め、みんなで元気いっぱい歌って踊りました。

NPO 法人わかばの会

「わかば第一事業所」

障害福祉サービスを実施し、知的障害者の社会参加の機会をつくっています。

旧あゆみ学園の施設に作業所があり、現在発達センターのおもちゃ清掃なども手伝っています。

調布市知的障害者援護施設就労移行支援事業所 「すまいる分室」

発達センターでは、おもちゃ清掃などを手伝っています。

すまいる分室は、知的障害をお持ちの方が一般企業で働く為に、そのスキルや心構え・経験を得て、就労することを目指す場所です。

発達センターで作業した経験を、今後就労する企業でも活かせるよう頑張っていきます。

NPO 法人調布心身障害児・者親の会 「びいす」

障害のある方々が働く福祉施設です。

「びいす」とは、

- ・ひとりひとりの「piece」を大事にし、集まって仕事をすすめていく。
- ・「びいす」の仲間を通して、みんなの気持ちが「peace」になっていく。

という意味が込められています。

子ども発達センター保護者の活動の紹介



あゆみ父母会（通園事業）

早いもので、今年度も残りわずかになってきました。

子ども発達センター通園事業あゆみ父母会では、日々いろいろな案を出し合って、子どもの集い・卒園式などのイベントの話し合いをわいわいやっています♡

スクッピー友の会

この会では、子ども発達センターを利用するお子さんの保護者の方が気軽に参加できるおしゃべり会を年2回行っています。

今年6月に行った、第3回のおしゃべり会には18名が参加され、自己紹介の時に「休日の過ごし方」をみなさんに聞いてみました。

休日はお父さんが子どもと一緒に過ごしているという方が何名もいてびっくりしました！羨ましい。小学生のお母さんも参加したので、学校の話にみなさん興味があったようです。

「おしゃべり会」は必ず卒園児のお母さんが参加されますので、先輩お母さんの話が聞きたい方は是非参加してみてください。開催日などの詳細は子ども発達センター内掲示板をご覧ください！

そして、10月22日は「センターまつり」で友の会では、「リユースコーナー」を出店！

22名の方が衣類や雑貨を提供してくださいました。品数300点以上集まりました。

季節外れの夏物は残ってしまいましたが、終了後に先生方もたくさん持っていかれました(^o^)

来年も出店したいと思いますので、みなさんのご協力をお願いいたします。

スクッピー友の会 世話人

NPO法人調布心身障害児・者親の会

親の会は、調布市子ども発達センター（旧あゆみ学園）の前身である「あゆみ教室」をつくった会です。現在会員数340余名。成人・肢体不自由・中高生・小学生・未就学児のグループがあります。

こぐまグループ

0～6歳の未就学児で、身体の障害の方から、手帳を持っていないけれど療育が必要なお子さんをお育てのママたちでつくるグループです。

日々の生活や療育、就園・就学に役立つ勉強会や懇談会を実施しています。

子ども発達センター利用者の方にもたくさん会員がいらっやいます。

懇談会のご案内

こぐま懇談会（年3～4回）、親子懇談会（年1回）
詳細は、子ども発達センター内掲示板をご覧ください。

問い合わせ・申込み
こぐまグループリーダーまで

みんなのサポートネット

親の会の先輩ママの体験談や専門家の学習会、講演会を行っています。チラシは各階の掲示板や1階エレベータ横、3階交流室のラックにあります。非会員の方も参加できますので興味のある内容がありましたら是非参加してみてください。

今後の予定

講演会（2回シリーズ） * 申込み受付は終了しています。

「気になる子、育てにくい子を伸ばす感覚統合」

第1回 12月11日（日）13：15～16：45

教育会館2階

第2回 2月5日（日）13：15～16：45

たづくり10階1001

参加費 無料

身体面で配慮が必要な方向け「先輩ママとの懇談会」

2月11日（土）13：30～16：00

子ども発達センター 1階ホール



おやじの会

「おやじの会」は、在園児のお父さん方を中心に、子ども発達センターの先生方や、卒園児のお父さん方も交え、定期的開催している飲み会です。今年度に入り2回行われ、毎回数人の新しいメンバーを迎えることができ、回数を追うごとに盛り上がってきました。年度内にもう一回、おやじの会を行いたいと思いますので、幅広く皆様の参加をお待ちしております。詳しいことが決まりましたら、施設内に掲示いたしますので、ご覧ください。

センターまつりでは、おやじバンド「リトルステップス」に演奏していただきました。

心地良いゆったりとした曲から、みんなで歌えるアニメの歌まで、おやじバンドの生演奏に子どもも大人も、うっとり聞き入っていました。メンバーの皆様ありがとうございました。

1月は調布市駅伝大会です。毎年参加している「あゆみのオヤジ」チームですが、今年は大会への応募チームが殺到して、残念ながら「あゆみのオヤジ」チームはキャンセル待ちという状況に置かれ、参加が危ぶまれています。駅伝を楽しみにしていた方々、いつも応援してくださっている皆様には大変申し訳なく思っております。しかし、まだ参加できる可能性は残されていますので、今後とも応援よろしくをお願いします。





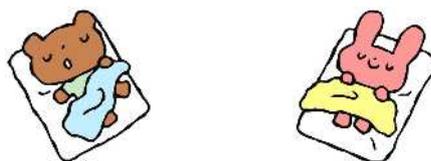
今年の秋も散歩，運動，制作等，いろいろな秋を楽しんでいます。
近年盛り上がっているハロウィン！子どもたちも楽しみました。
おばけの絵本を読んだり，歌ったり...そして、ハロウィンと言えば「お菓子」です。
すずらんテープや折り紙でキャンディやドーナツをつくり，お隣のクラスのお友だちと
お菓子の交換をしました。お友だちからお菓子をもらおうとみんなニコニコ笑顔でした。

遠足



暖かな日差しの中，多摩動物公園に遠足に行ってきました。
京王線と通園バスにわかれて出発しました。動物園につくと，早く～と期待が高まっているようでした。しかから始まり，くま 日本ざる，そしてぞうやキリンとご対面，ライオンやしまうまの鳴き声に驚く子もいました。電車大好きな子どもたちは，所々にある電車に乗り込み運転手気分を味わっていました。
多摩動物公園の坂道もなんのその，元気一杯な子どもたちでした。

長時間・宿泊療育



4・5 歳児さん対象の長時間・宿泊療育行事を 9 月に行いました。
4・5 歳児さん一緒に広い公園を散策，一番人気は大型遊具，初めは慎重に先生と手をつないでいた子も帰るころにはひとりでどンドン遊んでいました。
レストランでの夕食は，和室の雰囲気になんとかしこまっていました。
5 歳児さんはジブリ美術館へも出かけました。ねこバスの上に乗って満面の笑顔，映画を見たり，音の出るオブジェで遊んだりしました。
宿泊療育（お泊り体験）では，援護施設なごみの大きなお風呂に大喜び，夜はセンターにお泊りです。初めての泊りの子もいつもの場所で安心していただけました。



保健担当より



今年の秋はマイコプラズマ肺炎が流行り、センターのお子さんも数名かかりました。これから冬に向けて、ノロウイルスやインフルエンザなど、感染力の強い疾患が流行る時期ですので、お子さんの体調に充分ご注意ください。

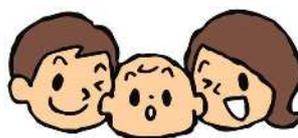
乳幼児期は、からだところの成長をしながら、人としての基礎をつくる時期です。その要となるのが生活リズムです。生活リズムには「食事」「遊び」「睡眠」の3つの柱が重要になります。この3つはどれもが成長に必要なもので、バランスよく保たれることで、五感をはぐくみ、豊かな情緒が育ち、からだの成長、運動機能の成長、こころの成長を促していきます。

- ・ 食事—朝食は排便を促し、体温を上げて活動開始のモードにします。
バランスのとれた三度の食事は、からだの成長だけでなく、いっしょに食べる楽しさや食事のマナーも身につけます。
- ・ 遊び—からだをつかって遊ぶことで運動能力を向上させ、いっしょに楽しい時間を共有することで、安定した愛着関係を築きます。寒さ、暑さなど外気に触れることは皮膚への刺激となり、かぜに負けない抵抗力もつきます。いろいろな遊びや経験を通して興味も広がっていきます。
- ・ 睡眠—早寝、早起きに心がけます。朝の光を浴びることで、からだを休めていた副交感神経から交感神経に切り替わり、活動のホルモンも分泌されます。また、夜の睡眠はからだと脳を成長させるホルモンが分泌されます。
早寝はご家族の協力が不可欠です。9 時頃には就寝できるように心がけましょう。寝る前に絵本を読んだりして、決まった流れ（入眠儀式）を作ると眠りに入りやすくなります。

生活リズムは、食事と睡眠時間を決めることで作りやすく、生活リズムを整えていくことで、生活習慣も身につけ、身辺自立へとつながります。

また、子育てをしていく中で、お子さんに対して、ちいさなことをひとつひとつ褒めるようにしていくと、自信をもつことができ、大切にされている、愛されている、自分は自分でいいんだという「自己肯定感」をもつことができるようになります。

ただ、これらのことは、いつもこうしなければならないと肩肘張らずに、適度に息抜きしながら、お子さんとの日常を楽しむことが一番大事です。





相談担当より



発達センターでは今年度から、相談専任職員をおき、相談事業に力を入れて取り組んでいます。

専任職員は2名ですが、その他に、作業療法士・言語聴覚士・心理士・看護師・児童指導員等、発達支援事業と兼務で相談事業を担当している職員もいます。

相談担当は、発達センターにお電話で相談される方とお話ししたり、初めて発達センターにいらした際の面談をする他、就学後のお子さんを持つ保護者からの相談等を受けています。

発達センターをご利用いただいている方については、日常的には各クラスやグループの担当職員と面談・相談されていると思いますが、福祉サービス・ご家庭のこと・幼稚園・保育園のこと等については、クラスやグループの担当職員と相談担当職員が一緒に、検討・対応することもあります。

その他、地域の幼稚園・保育園・学童等の先生対象の勉強会を実施したり、発達センターを知っていただくために療育見学会を実施する等、地域の子ども施設に向けた情報発信もしています。

お子さんについて、また、生活面等について相談したいこと、聞きたいことがありましたら、担当職員だけでなく、直接、相談担当職員に相談することもできます。

どうぞ、ご遠慮なく
お声をかけてください。



相談担当

編集後記

行事の秋を越え、あっというまに年の瀬を迎えました。

子ども達もたくさんの経験をしたことでしょう。

この一年、皆様のご理解・ご協力をいただき、
ありがとうございました。

また来年もどうぞよろしくお願いいたします。

